

南の風 485

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

ターンオーバーについての続きです。

ターンオーバーといってもその内容は多様で、ターンオーバーを分析するときは、**どういうシチュエーションで起きているかということまで考えることが重要**になります。

トラベリングやダブルドリブルが多いのなら、ボールの突き出しや止まり方、ピボットの仕方、ボールのハンドワークを振り返る必要があります。ドリブルをしているときに奪われたのなら体の使い方やドリブルスキルを高めなければなりません。ドリブルからパスへ移ろうとしたときにファンブルしたのなら、ハンドリング技術が不足しているといえます。パスをカットされたのなら、それはパスを出すタイミングやコースが悪いのか、またパッサーとレシーバーの関係を見直さなければならないのかを考えなければなりません。パス自体が弱すぎたのであれば、レシーバーに到達するまでの時間を考えて、パスを出す工夫をすべきです。こういったことまで分析しなければ、練習に反映させることはできません。

ターンオーバーの数は勝敗を左右します。ですからターンオーバーの数は、ファンダメンタルの成果のバロメーターと言えます。ファンダメンタルの質が高いチームはターンオーバーが少なくなります。

ファンダメンタルを徹底していればターンオーバーはおのずと減っていきます。逆に、ターンオーバーが減っていないのであれば、技術練習（場面設定を含めて）を見直す必要性があるということです。

また、**ターンオーバーは相手のレベルによって変わるスタッツ**です。ディフェンスのインテンシティー（強度）が弱いチームが相手であれば、ターンオーバーは少なくなるかもしれません。ディフェンスの圧迫感がなければ、心理的プレッシャーを受けずに済むのでミスは減ります。逆にディフェンスが強固なチームであれば、心理的、技術的なミスが頻発してターンオーバーは増えてしまうかもしれません。

例えば、相手がプレスディフェンスを得意とするチームの場合、ボディアップに戸惑ったり、トラップに掛かったり、パスミスが発生したりします。さらにバイオレーションが多発したり、攻める時間を削られたりしてボールを失うリスクが上がります。

ディフェンスのインテンシティーが高い相手に対してでも、ターンオーバーが増えないようにすることが、戦術、戦略面に大きく関わってきますし、練習の質を評価するうえでも重要になるのです。

U12のミニバスの場合、経験のなさからどうしてもターンオーバーが多発します。

私のチームでおこなった、ターンオーバーの分析結果を書きます。ある大会でターンオーバーがトータル22回でした。内訳は、パスミス10回、アウトオブバウンズ5回（キャッチミス3回、ラインクロス2回）、トラベリング3回（ポストでのミス1回、突き出し2回）、オーバータイム3回（ショットクロック24秒ミス2回、スローインミス1回）、ドリブルスティール1回でした。

パスミスが多い試合でした。パスミスの状況を見てみると、相手のプレスに対して視野が消されてのパスカットが4回、ポストへのパスカットが2回、リバウンドからトランジション時のミス2回、リターンパスのカットが2回でした。この分析結果から、練習で是正すべき点が見えてきます。

ターンオーバーを分析することは、コーチやチームスタッフの大きな仕事の一つになります。